



パネリスト 発表趣旨

【日本における障がい者スポーツの発展】

パネリスト：中森邦男

(公財)日本障がい者スポーツ協会強化部長・日本パラリンピック委員会事務局長

1964年の東京パラリンピックから現在までの障がい者スポーツの歴史を通じて、国内の障がい者スポーツの発展経緯と共に、日本障がい者スポーツ協会の組織や役割について紹介する。

また、障がい者スポーツの発展において、普及拡大(裾野を広げる)を担う地域のスポーツ振興は重要な事業であり、この推進のためには障がい者スポーツ団体間の連携が必要となってくる。

今後、国内全体の障がい者スポーツのさらなる普及拡大のために、中央レベルでの日本障がい者スポーツ(JPSA)協会とスペシャルオリンピックス日本(SON)との連携強化を図ると共に、各都道府県レベルにおいても、JPSA県協会とSON各地区組織が連携を図ることが重要になってくる。

【知的障害児・者のスポーツの現状と課題】

パネリスト：野村一路

日本体育大学体育学部教授

現在の我が国の知的障害児・者の置かれているスポーツを概観すると、運動・スポーツが日常的に行えている層と、全く運動・スポーツを行えない、あるいは行わない層に明らかに二極化している。

さらに、運動・スポーツが行える層であっても、スペシャルオリンピックスの活動に代表されるような、日常生活の質を高め、運動・スポーツを通して地域社会との接点をより多く持とうという理念に基づき、グラスルーツな活動として行う人たちと、INAS(国際知的障害者スポーツ連盟)に加盟し、いわゆる「IDスポーツ」という競技性が高い活動を行う組織によって活動し、競技によってはパラリンピックへの出場も目指している人たちに区別することもできる。

知的発達障害児・者も日常的に十分に身体を動かすことが必須ではあるものの、全く日常的に運動・スポーツをしていない非実施群が相当数に上っている。こうした運動不足がもたらす影響は、障害の有無を問わず社会的な問題であり、大きな課題である。

特に修学時と卒業後の運動実施の頻度の違いや、障害レベルの軽重による違いなど、課題も多い。とりわけ知的障害児・者にとって運動・スポーツの環境をいかに多く整え、提供していけるかについて、身体障害がある人々との違いにも視点を置き、今後の在るべき姿の考えを検討したい。



パネリスト 発表趣旨

【スペシャルオリンピックス活動の身体的な側面への効果】

パネリスト：岩沼聡一郎

SON調査研究委員会(帝京科学大学総合教育センター助教)

スペシャルオリンピックス(以下SO)では、幅広い年齢および競技レベルの知的障害のある方々がアスリートとして活動しています。安全かつ健康的にスポーツプログラムに参加してもらうためには、アスリートの体力やトレーニング中の身体への負荷(運動強度)の実態を正しく理解することが必要となります。

また、SO活動の特徴の一つである「複数形の"s"」を意味するものとして、継続的なトレーニングが挙げられます。8回の一連のトレーニングを1タームとすることや、4年に1度開催されるナショナルゲームや世界大会を日頃のトレーニングの成果を発表する場として位置付けていることは、SO活動の大きな特徴であるとともに、継続的なトレーニングによるアスリートへの効果が期待されます。

体力やスポーツパフォーマンスが、1タームあるいは4年間という長い期間の中で、どれほど向上するのか、たいへん興味深いことです。そして、SOで提供されるスポーツプログラムを通じて、あるいは特定の競技会を目指すことを励みにして、アスリートの運動習慣が形成されることは、アスリートの身体的健康を考える上で大切なことであり、SO活動がもたらす大きな効果といえます。

そこで、以上の観点からSO活動の効果について検証しました。これまでのSO活動を振り返るとともに、SO活動を通じて知的障害のある方々の健康を増進させるための課題についても考えていきたいと思えます。

【スペシャルオリンピックス活動の社会的・心理的な側面への効果、影響】

パネリスト：田引 俊和

SON調査研究委員会(北陸学院大学人間総合学部准教授)

スペシャルオリンピックス(SO)活動への参加に際して、ゼネラルオリエンテーションと称する研修を受けます。そこでは、「SOのスポーツ活動により知的障害がある人の身体的、社会的、心理的な効果があり、さらに家族や地域社会への効果もあります。」という説明がなされます。実際、多くのSO関係者がこのことを経験的に感じていることでしょう。私もその一人です。

では具体的にどのような効果や影響があるのでしょうか？調査の結果、様々なことが明らかになってきました。今回のシンポジウムではとくに社会的、心理的な側面に着目して、その結果をわかりやすくお伝えします。

なお、スペシャルオリンピックスに関する調査研究は今後も継続していきます。他のすべてのスポーツと同様に、私たちが活動するSOのスポーツプログラムも社会と相互に影響し合っています。

活動の効果、エビデンス(根拠)をきちんと示せるようになればSO活動は今よりもさらに意義あるものになると考えます。

とはいえ、スペシャルオリンピックス調査研究委員会の活動はまだ緒についたばかりで多くの方々のご支援ご協力が必要です。私が関心を持っているのは、SO活動と社会的、あるいは心理的な側面との関係、効果です。この領域に興味関心のある方、専門とされている方とともに研究活動ができることを期待しています。